



DoKoネット

—同志社大学理工学部同窓会報—
第14号 (2011)



What's New!

新同窓会名簿の閲覧

2011年度同窓会名簿調査結果を反映した新名簿は、以前のような冊子印刷やCDによる閲覧は廃止し、事務局での閲覧方式に切り替えました。詳しくは本冊子16ページをご覧ください。

2011年度 第24回理工学部同窓会 総会・リユニオン 2011年11月6日(日) 京田辺キャンパス

- 10:00～ 同志社京田辺祭(クローバー祭)2011 (京田辺キャンパス)
同志社大学ホームカミングデー2011 (今出川キャンパス)
(両校地シャトルバス運行予定です。)
- 13:00～14:30 研究室公開(OB・OGの方のみ) ※事前申し込みが必要です。
- 14:30～15:00 理工学部同窓会総会(恵道館1階104教室)
- 15:15～16:45 「はやぶさ」講演会(恵道館1階104教室)
- 17:00～18:30 理工学部同窓会リユニオン懇親会
(お一人：1,000円 紫苑館生協食堂)

—卒業年グループリユニオンの世話役を同窓会事務局までご推薦下さい—

2011年度は工学部の第1期の卒業生が出てから60周年の記念の年となりS31, 36, 41, 46, 51, 56, 61, H3, 8, 13, 18年卒業の方が5N周年を迎えられます。5N周年の方々と同期会を企画いただく場合は、世話役の方が事務局へご連絡いただけますと、宛名印刷などのお手伝いをさせていただきます。

理工学部同窓会ホームページアドレス

<http://dokonet.doshisha.ac.jp/>

ホームページをリニューアルいたします。

理工学会と合同のホームページとなり、理工学会情報や理工学部同窓会情報と共に研究室OB会、同期会卒業生の掲示板としてご利用いただけます。詳しくは本冊子16ページをご覧ください。

次号同窓会報“DoKoネット”第15号は2012年10月に発行いたします。

ホームページの活性化に皆様のご協力をお願いします。

表紙写真：今出川キャンパス工学部跡地の今及び今出川キャンパスより京田辺キャンパスに移されたヒマラヤ杉 (ホームページ<http://dokonet.doshisha.ac.jp/topics/detail.php?i=69> ヒマラヤ杉の移植についてをご参照ください)

積極的なご参加を

同志社大学理工学部同窓会
会長 橋詰 源治



同志社大学理工学部同窓会の皆さまにおかれましては、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

皆さまからの温かいご支援に深く感謝し、心よりお礼申し上げます。

このたびの東日本大震災等により被災された皆さまに、心よりお見舞申し上げます。また被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて此の度、上西勝也前会長の後任に選出されましたが、若輩ですのでよろしくお願い申し上げます。

私達の理工学部同窓会活動は工学会活動の一つとして、第一回リユニオンが1987年3月14日、新築された新島会館で開催されました。1995年の阪神大震災で中止された年以外は、毎年開催されてきました。本年も11月6日、京田辺キャンパスで第24回目を開催すべく準備が進められています。



平成23年6月25日(土)
レイクフォレストリゾート、ザ・センチュリーコースにて
1964年度生 電気・電子工学科

この25年間の運営には歴代の会長、役員
の皆さまの大変なご苦勞と皆々さまの温かい
ご支援の賜物と改めて深く感謝申し上げます。

25年の歳月は過ぎ去りましたが、同窓会組織はまだまだ弱体であります。各年代をつなぐ事が一番大切と考えます。そのために是非沢山の同窓生の方々のご参加に期待いたします。

後になりましたが、財政的運営についてお願い申し上げます。

2006年度より、新卒業生から年会費2千円の5年間分として1万円を大学側の代理徴収で行っていただいております。

即ち若い同窓生の御蔭で財政的に運営されていますので、卒業生全員に同窓会費を納入していただき、今後の発展にご協力賜りますようお願いする次第です。

皆さま方の一層のご発展、ご健勝をご祈念申し上げごあいさついたします。

(昭和43<1968>年 電気工学科卒：(株)橋詰電気工業所 代表取締役)

理工学部の近況

同志社大学理工学部長
同志社大学理工学部大学院工学研究科長
同志社理工会 会長 辻 幹男



2008年度に数理システム学科を新設し10学科体制としたのを機に、工学部を理工学部に名称変更してから早4年近く経ち、2012年3月には工学士に加えて理学士の学位を持つ卒業生を送り出すことになりました。また、これに呼応して2012年4月からは大学院工学研究科を理工学研究科に、工業化学専攻を応用化学専攻に名称変更いたします。さらに2010年秋学期からスタートした英語による講義だけで修士学位が取得できる国際科学技術コース初の修了生が2012年3月には誕生する予定です。このように理工学部、工学研究科は今日の技術進歩、国際化に即応すべく、教育、研究内容の見直しおよびそれを取り巻く環境の整備に努めております。最近の新聞記事等で御存知かと思いますが、工学博士、理学博士の取得を考えられている同窓生の皆様への朗報として、来年度から博士後期課程学費相当額を支給する奨学金制度が発足致します。入学時34歳未満という年齢制限および後期課程の収容定員以内という支給人数の制限が課せられておりますが、経済面でのハードルがなくなることにより、後期課程へ入学される同窓生の増えることを期待しております。

さて、これまでの理工学部、工学研究科と同窓生の皆様方との繋がりを考えますと年一回の大学開催ホームカミングデーでの総会と同窓会誌である「Dokoネット」があるのみで、在学生と同窓生、あるいは同窓生の皆様方同志の情報交換の場が提供されておりました。このたび、卒業生、修了生で構成される同窓会と在学生で構成される理工会が協力してホームページを立ち上げることになりました。主な内容は同窓会、理工会の行事等のお知らせを始めとして、研究室情報、就職先情報、同窓会支部情報などであり、是非、ご活用願えればと思っております。

最後にホームページの立ち上げにご尽力、ご協力いただいた方々に御礼申し上げます。
(昭和51〈1976〉年電子工学科卒、昭和56〈1981〉年大学院〈後期課程〉修了)

インテリジェント情報工学科, 情報システムデザイン学科

情報系2学科は、2011年4月にインテリジェント情報工学科91名、情報システムデザイン学科102名の新生を迎えました。また情報系の両学科から総計89名が新たに情報工学専攻博士前期課程に入学し、後期課程にも3名の学生が入学しました。2010年秋学期から開講された工学研究科国際科学技術コースには3名が在籍しています。

就職については、昨今の厳しい経済状況の中でも健闘し、昨年を少し上回る実績を挙げることができました。これもひとえに卒業生の皆様方の、それぞれの職場でのご活躍の賜物と感謝いたしております。

研究に関しては、関係論的システムデザイン研究センターとモビリティ研究センターを創設し、それぞれ、心の豊かさや“つながり”を実感できる社会情報基盤、および将来に向けたモビリティ変革を実現するための新技術の研究開発を進めています。

教育体制としては、2011年4月から土屋誠司先生が准教授に昇任されました。本年度も従来通り、次のような研究室の構成で教育・研究にあたっております。

〈インテリジェント情報工学科〉情報数理工学研究室（渡辺陽一郎教授、程俊教授）、情報システム学研究室（金田重郎教授、芳賀博英教授）、知識情報処理研究室（渡部広一教授、土屋誠司准教授）、知的機構研究室（柳田益造教授、坂東敏博准教授）、知的システムデザイン研究室（三木光範教授、吉見真聡助教）、知能メカトロ情報システム研究室（橋本雅文教授）、〈情報システムデザイン学科〉社会情報学研究室（下原勝憲教授、イヴァンタネヴ准教授）、知能メカトロ情報システム研究室（高橋和彦教授）、共創情報学研究室（片桐滋教授、大崎美穂准教授）、応用メディア情報研究室（大久保雅史教授、土屋隆生教授）、ネットワーク情報システム研究室（佐藤健哉教授、小坂隆浩専任講師）、音声言語処理機構研究室（山本誠一教授、西田昌史准教授）。

今後とも皆様方のますますのご支援をお願いいたします。

教務主任 下原 勝憲



下原教務主任

電気工学科, 電子工学科

本年度は、電気工学科96名、電子工学科103名、電気電子工学専攻前期課程95名、後期課程3名の新生を迎えました。総数としては、学部では電気工学科375名、電子工学科397名、大学院では前期課程186名、後期課程9名の学生が、勉学および研究に励んでいます。

理工学部では、基礎を重視した教育を行っており、学生実験では、実際に物に触れ、

学科紹介

ものづくりの体験から学べるよう配慮しています。電気系学科では、本年度より、85台の最新のデジタルオシロスコープを導入して学生実験の充実を図っています。また、2010年度に採択された文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「総合的電力・通信社会環境の形成プロジェクト」によって、研究活動は非常に活発になっています。そして、昨年度より行っている「電気工学実験Ⅱ」および「電子工学実験Ⅱ」におけるプレゼミ配属によって、卒業研究に対する学生の意識は今まで以上に高くなっているように見えます。現在のカリキュラムは今年で4年目となり、さらなる改善を目指し、カリキュラム全体の検討も行っています。



出口教務主任

就職については、就職委員・粕谷俊郎先生から、「震災の影響もあり、就職状況は依然厳しいままで改善していませんが、就職状況は院生、学部生ともに例年並みで良好です。ただし、学部生については2008年度生から入学定員が約2割減ったことにより、見かけ上就職、進学者数が減っています。」とのコメントを頂きました。進路の概要は次の通りです。学部生の在籍者数182名、就職希望者数71名で、公務員志望が3名、教員志望が2名となっています。現時点で就職内定者数は46名、進学者数は約110名（他大学、他専攻を含む、内訳は把握できていません）となっています。また、院生（前期課程）の在籍者数は91名、院生の就職内定者数は84名、進学希望者は2名です。

教務主任 出口 博之

機械システム工学科，エネルギー機械工学科

本年度は、新一年生として機械システム工学科に107名、エネルギー機械工学科に89名で両学科合わせて196名が入学しました。総数としては、機械システム工学科502名、エネルギー機械工学科352名の学部在籍生が技術と知識を身につけるべく励んでおります。一方、機械系学科では、能力を有する学生には大学院（工学研究科機械工学専攻）への進学を奨めており、2011年度には113名（卒業生の約2/3）が大学院に入学し、現在2年生と合わせて211名が博士課程前期（修士）に在籍しています。また、博士課程後期（博士）には16名が在籍しています。

機械工学専攻では、平成20年度に文部科学省大学院教育改革支援プログラムとして「安全・安心の設計システム技術者養成課程」が採択されました。これは安全・安心を講義と企業での実習の両面から修得するプログラムとなっており、3年間の試行期間を終え、平成23年4月より正式な学内コースとして「安全技術者養成コース」となりました。専攻内においても、本活動の意義が浸透し、平成20年度24名、21年度23名、22年度29名と学生登録者数が増え、新たなコースとなった今年度は35

名の新規登録者となりました。インターンシップにおいても、昨年度までは修士1年生で事例（事故）調査、修士2年生で危険予知活動といった形で行いましたが、今年度よりそれらを1回にまとめて「安全安心実習」という科目で実施しています。また本年度に文部科学省が公募した国際化拠点整備事業（グローバル30）に本学の申請が採択されたことに伴い、理工・生命系研究科に英語のみで学位が取得できる「国際科学技術コース」が開設され、当機械工学専攻のコースにも数名が入学しました。彼らは国際的に活躍できる高度な人材を目指しながら、機械工学を学んでいます。

企業からの求人の状況も順調で、本年度には295名の修了および卒業見込み者数に対して、約1449件の求人があり、企業への就職を希望する学生の就職率は、例年通り実質100%を維持しています。

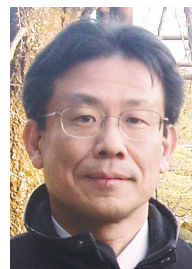
2011年3月には今井田 豊教授、藤本 元教授、上野谷 敏之教授がご退職になりました。一方、2011年4月より機械システム工学科に藤原 弘准教授、荒尾 与史彦助教が、エネルギー機械工学科に新國 裕昭助教が、ともに機械系学科のメンバーとして加わりました。またエネルギー機械工学科の平山 朋子准教授が2011年9月に1年間のスイスのETH Zurichでの在外研究から戻られました。

昨年度末の2011年3月には東北地方にて大震災があり、社会の動向や大学を取り巻く状況も大きく変わりつつあります。大学生の就職や、また学内での教育・研究活動など多岐にわたり、同窓会メンバーの方々を中心に、関係する企業の方々にも益々のご協力をお願いすることが重要かと考えております。ご支援のほどをよろしくお願い致します。

教務主任 高岡 正憲

機能分子・生命化学科、化学システム創成工学科

理工学部の化学系2学科の機能分子・生命化学科と化学システム創成工学科は、改組4年目を迎え、本年度に初めての卒業生を出す予定です。また、次年度に大学院が工業化学専攻から応用化学専攻に変わることを受けて、7月の大学院入試では、それに合わせた入試が行われました。これらの2学科は、それぞれ、「分子の性質と独創性で先端領域を開拓する」および「新しい化学工学の視点で持続可能な社会形成を支える」ことができる卒業生が育つ教育を目指し、かつ、そのような人材養成につながる研究を行っております。今年度の新入生は、機能分子・生命化学科113名、化学システム創成工学科96名、大学院工業化学専攻101名となっております。



塩井教務主任

昨年度末に、東日本大震災にいたる地震と津波があり、本学でも被災した在学学生、新入生への就学上の配慮が行われ、また、ボランティアにいく学生が活動しやすいよ

学科紹介

うな教学上の配慮も、あわせて行われています。化学系教室として、教育・研究に深刻な影響は出ていませんが、卒業生の皆様にも、震災の被害や影響を被っておられる方が多くおられると存じます。心よりお見舞い申し上げます。

本年度の就職状況は昨年と同様に厳しく、第一希望の就職先から容易に内定が得られる状況とはいえませんが、化学系学科では学部生、院生とも良く努力し、多くの卒業、修了予定者が進路を確保しつつあります。このような状況は、卒業生の皆様の社会でのご活躍のたまものと、教員、学生ともども感謝しております。

化学系教員では、任期内での短い期間でしたが教室の運営にご協力をいただきました。化学システム創成工学科の伴貴彦助教が本年3月をもって退職されました。また、本年度は、化学系の入っている至心館の空調設備と照明設備の交換が進んでおり、照明設備を交換した部屋は従来に比べて断然、明るくなりました。それでも、消費電力は少なくなったそうです。

日本の大学のおかれている環境は、様々な点で年々厳しくなっておりますが、教職員一同、化学系学科のさらなる発展を目指して日々、取り組んいく所存でございます。

教務主任 塩井 章久

環境システム学科

2004年4月に設置された環境システム学科はこの春、これまでで最も多い73名の新入生を迎え入れました。また、工学部が理工学部へ改組再編された2008年度に入学した学生が4年生になり、来年3月には理学士または工学士として卒業することになります。卒業研究の研究室やテーマの選択では自然災害やエネルギー・インフラに関心を示した学生が目につきましたが、これは3月の東北地方太平洋沖地震と津波による災害がきっかけになったものかも知れません。

本学科は、自然科学諸分野の横断的な知識をもとに地球と生命の理解、自然環境の保全、循環型資源・エネルギーシステムの構築などに貢献できる人材の養成を目指しており、初年次に理工学の基礎科目やプログラミング、2～3年次に環境科学と環境工学の専門科目、科学技術論や環境経済学などを学んだ後、卒業論文へと進むカリキュラムを編成しています。卒業研究を行う研究室の構成は次のとおりです。

地球システム科学研究室（林田明教授・福間浩司准教授）、人間環境研究室（山下正和教授）、環境保全・防災科学研究室（増田富士雄教授・横尾頼子専任講師）、環境システム工学研究室（盛満正嗣教授）、地域環境研究室（山根省三准教授）、



環境システム学科の研究室がある
恵喜館(左)と報辰館(右)

生命環境保全研究室（武田博清教授・光田重幸准教授）、新エネルギーシステム研究室（後藤琢也准教授）

なお、伊藤靖彦先生は2010年3月に定年退職を迎えられました。本学科設立以来のご尽力とご貢献に厚くお礼申し上げます。

卒業生の半数近くは本学の数理環境科学専攻や他大学の大学院に進学し、さらに先端的研究と知識の習得に努めます。修士課程の院生の就職状況は良好です。学部生の就職には経済不況の影響が表れているようですが、製造、環境関連企業の他、商社や金融関係、公務員や教育職にも活躍の場を広げようとしています。今後とも同窓会会員の皆様のご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

教務主任 林田 明

数理システム学科

数理システム学科は、2011年4月に56名の新生を迎えました。2008年に新設置されてから在学生の総数としては190名（2011年9月時点）が勉学に励んでいます。新4年生は、4月に次の8研究室に配属され、卒業研究に取り組んでいます。「代数学」（岡崎龍太郎）、「解析学」（押目頼昌）、「幾何学」（河野明）、「関数方程式」（溝畑潔）、「計算数理」（三井斌友）、「統計ファイナンス」（津田博史）、「情報解析」（斉藤誠慈）、「離散数理」（渡邊芳英）。



津田教務主任

本年度の3月に、数理システム学科の最初の卒業生を送り出します。今年は、3月の東日本大震災の影響もあり、これまでに増して就職難の状況ではありますが、進路希望としては、銀行をはじめとした金融機関やIT企業、製薬会社などのメーカーへの就職希望、そして中学校・高等学校の教員への教職希望が中心となっております。また、来年度に本学の数理環境科学専攻や他大学の大学院前期課程へ進学する学生数が30名中13名となっております。本学科では、学科のOB・OGが現時点ではないため世の中の情報が入って来ないせいか、就職に対する在学生の関心が低く、就職・教職説明会（2011年度4月と9月に実施）、個別就職面談に加えて、日本銀行の研究員や大手シンクタンクの企業コンサルタントを特別講義に講師としてお迎えするなどして、在学生の世の中に対する視野を広げるとともに、将来の進路に対する問題意識の喚起を図っています。加えて、将来、専門職、研究職に就きたい学生には、大学院への進学が将来の就職活動において企業に採用される上で重要であることをアドバイスしています。学生が卒業後、数理システム学科において育んだ数学力を活かして世の中で活躍できる人材となることを祈念して、日々当学科教員一同努力しております。今後とも皆様方のますますのご支援を賜るようよろしくお願い致します。

教務主任 津田 博史

ひとことエッセー

この時代に更に技術と誠実でモノ作りに拘る

津井 克巳

私は、機械工学第二学科78年卒で、新井ゼミ出身です。早いもので、卒業後33年も経過しました。当時、工学部は今出川校舎でしたから、京阪三条や近鉄京都駅から大学に通っていましたが、行き帰りともバスで、待ってもなかなか来ない、来たら満員、雨の日はムシムシと、たまらん思いでしたが、今や地下鉄が整備され、本当に便利になっております。今の学生さんは幸せだと思います。生駒からの通学に片道2時間以上も毎日費やしなごら、我ながら良く通ったものだと思います。製図の提出がギリギリになり、学校に着いてからも最後の仕上げを必死でやりながら、先生にまだかまだかと追い立てられ、下宿の仲間を本当に羨ましく、妬ましく思った日々が懐かしく思い出されます。



田辺校舎は、先輩が機械科教授になられている関係もあり、数年に一度のペースで訪問する事もありますが、今出川校舎は全くのご無沙汰です。しかし、昨年、10数年ぶりに行きました。本当に懐かしい思いで、新鮮な感動を受けました。実は、15年ほど前から年に一度、機械第二卒の5人の同級生と盆休みを利用して会っているのですが、久しぶりにと貴船の帰りに寄った訳です。しかし56歳の今となっては、所謂、60歳という定年年齢にあと4年と近づいて来ると、5人だけと言うのもちょっと寂しい。もうちょっと多人数で集まっても面白いな、来年からは、もっと、多くに声を掛けようかと言う話にもなりつつあります。是非、お時間を作って頂きたいと思います。そして、第二学科の同窓会も是非行い、みんなで懐かしい話に、そして現在の話に、皆で盛り上がりたい思いで一杯です。勿論、ゼミの同窓会も是非、積極的に開いて頂ければと思います。特に、この7、8年ほど、同志社卒で活躍されている方々との縁が、非常に多く感じます。殆どが、仕事上で実際に関係のある重要ポストにおられる方々で、この混沌とした時代にこそ、同窓と言う、繋がりに本当に感謝しています。

今日の日本経済は、リーマンショック後、回復に向かい始めてやれやれと思う間もなく、超円高、超ユーロ安で、輸出業界は、非常に苦戦を強いられています。私は入社30年、親父から社長業を引き継ぎ、今年で10年目になりますが、歯車の製造を営んでおります。今年で創業63年になり、ユーザー業界は工作機械、印刷機械、船舶周辺装置、車輛、発電機、一般産業機械、航空機です。工場が和歌山に19年前に移転し、東大阪の本社で27名、工場に103名が勤務しております。非常に強固な岩盤の上に建つ工場、無窓の恒温工場で220台の設備を駆使し、精密歯車を中心に直径



工場全景

10mmから3500mmの歯車生産をしております。文字通りの中小企業で、世界の設備投資動向に業界の景気がモロに左右される宿命を負っております。和歌山に工場が移転した直前に平成バブルが弾け、10年後、親父から社長を引き継いだ年に、所謂、ITバブルが弾け、そして3年前にリーマンショックです。リーマンショックは世界同時不況ですが、先の2大不況は日本国内のみです。つくづく、日本の製造業は、可哀相と言えます。サー

ビス産業が光を浴び、我々モノ作りの業界が力を削がれる様な状況は残念な事です。日本の御家芸と言われた業界が、後進国に取って代われようとしています。かつて、国内企業が後進国に技術を教え込んだ事が、今や国内企業を追い込む事に繋がっています。日本国内に残るのは、極小ロット、超短納期、超高精度、超高難度、超難削等々と言われています。本当にこれしか生き残れないのでしょうか。これが本当ならエライ事です。気の使い過ぎで、頭が禿げてしまいます。日本の工場が禿げただけでは、眩しくてしょうがない。

でも、本当にそうでしょうか。日本に脈々と受け継がれてきた底力は、単にQCDだけでは無いと私は社員に説いています。日本のモノ作りはQCDDT即ち、技術（テクノロジー）も、脈々と受け継がれているのです。その最たるものは、日本刀に使われる玉鋼ではないでしょうか。世界一美しく、世界一の切れ味、世界一の強さの剣は、日本刀です。信頼も正に技術と誠実のバックボーンの賜物です。そう信じて、これからも国内生産に拘って、精密歯車を誠実に作り続けていきたいと思っています。

（昭和53〈1978〉年 機械工学第二学科卒：大和歯車製作株式会社 代表取締役社長）

理工学部・工学研究科事務室に配属になって

石田 修一

私立大学の役割のひとつは、志をもった卒業生を世に輩出することだと思います。私も卒業生の一人であり、志があるかは別として、卒業してから約10年が経過しました。卒業後に食品メーカーで少し勤めた後に、現在は母校である同志社大学で働いています。大学職員になって、3部署目となりますが、不思議な縁があり、卒業学部でもある理工学部事務室に昨年10月より配属となりました。大学は、私が卒業した10年前と比べても、大変厳しい状況に置かれて



ひとことエッセー

います。国立大学の法人化、受験人口の減少、新設大学・学部の設置など大学間競争は激化する一方で、本学においても、工学部が理工学部へと発展（改組再編）し、卒業当時は6学部だったのが今や13学部（2013年度には14学部の予定）となっています。京田辺校地においては、理工学部や生命医科学部など6学部が集積された自然科学系キャンパスへと生まれ変わり新たなスタートをきりました。このような状況の中で、大学としても、学生納付金に依存するだけでなく、社会との更なる接点を広げ、社会貢献をするとともに、自らの努力による外部資金獲得を目的として、リエゾンオフィス・知的財産センターを2002年に開設しました。私の最初の配属先であり、学外の人と接することが多く、結果としてたくさんの卒業生とお会いすることができました。当時の業務は、公的資金や受託・共同研究や知的財産管理等であり、自らの経験不足と、比較的新しい部署ということもあり、ノウハウが少なく、申請や契約においては壁にぶつかることもありました。そのような時は、諸先輩方に相談すると、「大学のため、後輩のために」とアドバイスをいただいたり、適した機関や人を紹介して頂いたりと多くの人材を輩出してきた本学の歴史と強みを感じました。また、工学部卒業生である諸先輩方が共同研究者であることも多く、これらは教員の独創的で高い研究力があるのは言うまでもないですが、それに加え理工学部の教育研究方針を自ら理解し学ばれた卒業生が、共同研究先を探すときに自然に候補にいられていただいている結果かなと感じています。理工学部事務室に着任してからも、連携大学院方式等において、ご協力いただいている諸先輩にお会いすると感謝の気持ちでいっぱいになるとともに、多くのすばらしき卒業生を輩出してきた理工学部で働く者の一人として身が引き締まる思いです。

さて、そのような気持ちで勤務していて最近気になるのは、休学や退学者が非常に目立つことです。このような経済状況なので経済的理由が原因であることも多く、優秀な学生が勉学の意思があるにもかかわらず諦めざるをえない状況にあることは非常に辛い思いですが、奨学金制度の充実など改善されつつあると思います。ただ、急激に増えてきている理由で気になるのが、精神面での問題によるものです。このような相談を、両親や祖父母から受けることも増えてきており、本学のカウンセリングセンターなどを利用するように勧める程度にとどまっています。

卒業して10年、妻と二人の子供をもち、いつの間にかおじさんになった私は、「もう大人なのだから、自分で解決すべき。」「自分の人生なのだから、おもいっきり楽しめばいい」と、昔父親にいわれたようなことを思い出す時がありますが、今と昔（この10年間だけでも）では異なるようです。私の同期にも就職や研究結果への不安などで、一時的に精神面で問題を抱えた友人はいましたが、恩師やゼミ仲間と相談協力して乗り越え、今では企業の中心的存在としてがんばっている友人もいるだけに、な

んとか卒業してほしいと願います。しかし、最近の多い傾向としては、理工学部に入學する能力があるにも関わらず、入學後すぐに精神的不安を抱え、解決する方法を見出せずに退學に至っているようです。このような問題に対して、アドバイザークラスやフレッシュャーズキャンプなど学部・大學として取組んではいますが、教員、卒業生、職員による意見交換によって更なる解決策を見出したいと考えています。
 (平成 12〈2000〉年 エネルギー機械工学科卒, 平成 14〈2002〉年 大学院修了: 同志社大學理工学部・工学研究科事務室)

雑感：教育と研究，その他もろもろ？

藤井 透

【学生の学力低下】

最近、教職員食堂では、学生の学力が昼食時の話題となる。嘆きでもある。「?年前と比べて、最近の学生の学力は悪くなった。〇〇年度の学生はひどいね…」などといったところである。

振り返れば、工学部の京田辺キャンパス移転・学科名変更と同時に、『ゆとり教育』の名の基、機械系学科でも履修システムが大きく変わったことが思い起こされる。卒業に必要な単位数が 140 → 128 と少なくなった。英語など語学の単位数も減った。必修科目も減った。私が卒業した 1970 年代に比べ、大学 4 年間の学習面での負担は実質 2/3 になったと思える。すなわち、4 年次の設計製図科目（通年 2 単位）は無くなった。半期 6 か月を 1 ユニットとして教育を考えるセメスター制を導入すると併せて、2, 3 年次の実験や 3 年生の設計製図、2 年次の機械製図も通年から半期になり負担は実質半分程度になった（いずれも半期で 2 単位取得できる。かつては通年 2 単位であった）。以前は授業として実施されていた工場実習も無くなった（学内の工作機械を使用するための基礎作業と安全の講習は土曜日に実施。ただし、時間数は大幅に減少した）。卒業研究にも 4 単位が配当されている。半期 1 単位の座学科目は無くなった。

図 1 は大学進学率の推移を示す（文科省 WEB 公表データより作成）。団塊の世代が入學した

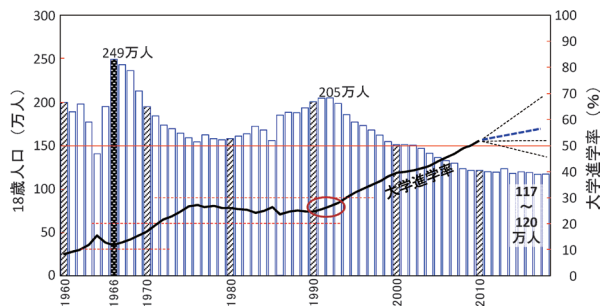


図 1

ひとことエッセー

1966年の18歳人口は249万人にも達している。その時の大学進学率は12～13%程度であった。団塊世代の終わりの1970年でも進学率に大きな伸びは無く、進学率が20%を超えるのは1972年からである。このころの大学生の総数は100万人程度である。一方、現在に目を向けると、2009年の大学（4年生）進学率は50%を超え、昨年は52%にも達した（大学生総数は253万人。ちなみに、2009年の専門学校を含む高等教育機関への進学率は79%を超えた）。国は第二次ベビーブーム（18歳人口は最大205万人：1992年）到来の折、各大学に入学定員の臨時増を要請・指導した。これにより私立大学も大幅な学生定員増を行った（上智のように、増やさなかったところもあるが）。同志社大学機械系学科では、いずれも120人→155人へと定員が臨時的に増やされた。ただし、教員増は行われなかった。一方、国立大学でも8%程度定員が増やされた。図1に見られるように、ブーム後、18歳人口は急激に減少し、2000年には151万人となり、2011年では120万人となる。実に、団塊世代の半分以下である。第二次ベビーブーム後の18歳人口の急激な減少はその時点でわかっていたことではあるが、国立大学では教員増も伴った（当該大学にとっては良い口実だったと感じる）。公立大学は定員増に加え、新設が相次ぎ、2006年の学生入学定員はベビーブーム前の2倍近くにもなった。国立大学ではベビーブームが去り、18歳人口の減少が続いているにも関わらず、今も従来の学生定員を維持している。社会を取り巻く科学技術の状況が変化したとのことで、新学科設立が相次いだのもこのころである。入学者獲得をもくろみ、今も学部・学科の新設や学科名称の変更事例が続く。

さて、これらの出来事と先の教員の嘆きを関係付けてみる。1966年当時、18歳人口が極めて多いにも関わらず、大学進学率は低かった。大学入学者数は29万人であった（文部科学省「学校基本調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（平成14年1月推計）より）。なお、短大入学者も11～13万人とその割合は大きかった。経済も好調で、それを支える工業分野では機械系技術者のニーズは現在より高いものがあったと感じる。そのため、受験者にとって、機械工学は大いに希望する分野であったに違いない。当時、大学・工学部・機械系学科の数も少ないため、図2（a）に示すような分布で同志社大学の機械系学科で学ぶに足る資質

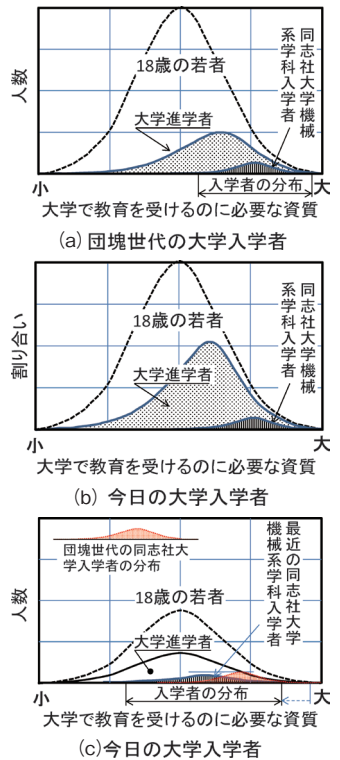


図2

を備えた学生が応募，入学してきたと推察している¹。高い資質を備えた学生も入学していたに違いない。それでは，現在はどうか？ 同志社大学機械システム工学科について言えば，偏差値は²私学で慶応，早稲田に次いで3番目に高い。エネルギー機械工学科も偏差値的には1低いで，私学間での難易度は極めて高い。卒業後，東大，京大をはじめとして主要国立大学の大学院に多数合格することから考えると，相対的に学力の高い学生が入学していると確信できる。すなわち，図2 (b)に見るように，割合でみれば，進学率が50%を超えたからと言って，本学の入学者の大学での学びに対する相対的資質が低下してはいないだろう。しかし，絶対値で見ればどうか？

図2 (c) では，縦軸を人数として表した現在の18歳の若者が大学で学ぶとの視点から，その資質の分布状況を示したものである。人口が249万→120万人となったことから，若者の資質が正規分布をしてもその人数の最大は1/2以下となる。経済不況や高齢化社会での不安を背景に，『高い授業料』+「下宿代+生活費」=極めてコストがかかるとして，私学は敬遠されがちである。地方では，経済事情を背景に地元国公立大学への進学が高校の進路指導の成果と考えられていることもあって，奈良などを含め，高校の進路指導の先生方に積極的に私学を応募させようとする空気はないように感じる。上述のように，バブル経済破綻後の国立の学生収容定員（4年間）は，1996年，42万8千人で最大となり，2000年度，40万人弱まで減ったが，その後の減少はない（入学定員は10万人）。医学部に限れば，かつて1984年が入学定員のピークで，国公立大学（自治医大含む）の合計は5,340人であった。しかし，2012年度は5,773人となる。高齢化，高度医療の必要性から医師の充足は重要とはいえ，理工系を目指す学生の中，言わば優秀な学生が医学部を目指すことも多いと聞く。さらに，本学でも機械系技術者としての素養も涵養する医工学科（生命医科学部）があり，現在の機械系学科の入学定員は昔と変わらない。これらを総合すると，大学受験者にとって現在は学部・学科に関して極めて幅広い選択の余地があり，（本学に限らないが）機械系学科が「優秀な」学生を獲得できる機会は減少するだけでなく，結果的には，入学者の資質は大きく分布し，理系としての素質に欠ける学生すら入学させる事態に至っている。したがって，1980～90年代の学生と今日の学生と比較して，同じように教えようとすれば，その教育に至極困難が伴い，先の愚痴とも聞こえる話題となる。

【授業と成績評価】

教員（全員ではないかもしれない？）の悩みの一つに授業の運用と学生の成績評価がある。ここ10年は幅広い資質と，図2 (c) で左に中心が移った資質を持つ学生集

ひとことエッセー

団の授業を担当している。最近の実験レポートのチェック時間は国語・作文を教える時間である。日本語が書かれていない、何が言いたいかわからない、何度言っても文章が直らない、何しろ作文の訓練を受けていないのだから。3年生の実験レポートである。つい、「親に責任がある」などと幼稚園みたいな愚痴も飛び出す。思い起こせば、小学校の頃、作文の宿題は沢山あった。添削は母だった。そんな思い出が先の愚痴ともなる。「小・中・高校の教師は何してるんだ〜」などと叫びたくもなる。本学の卒業生かもしれない。私が教えた学生かも知れない。本当ならこの時間、実験結果から何をどのように見出すかを教えたいのに。最近PCの普及で、前週の学生のレポートをカット&ペーストして自分のレポートとして出す。ワープロの使用はOKとしている（私は奨励している）のは、①ワープロの操作に慣れさせる、②日本語の校正に時間を割ける、③考察を練り直せる、などの狙いがあったからである。でも学生は楽なところだけを使う。秋からは、盗撮チェックプログラムを使い、これによって安易なカット&ペーストの癖を防ごうと考えている。それでも、レポート評価は印象中心になり、教員間でのばらつきは多い。

最初に述べたように、現在、実習や実験に割く時間は以前と比べて半分になった。作文ですら、その能力はある程度の数・回数だと考える。すなわち、実験回数である。評価を考える前に、嘆く前に実験回数を増やす方が必要と考えている。ただ、これについても教員間で意見が分かれる。①これ以上、時間が割けない、②ダメな学生は何度書かせてもダメ…などである。大学院の数が飛躍的に増えた今日、そのケアにも手がかかる。教員は研究に割く時間も削られるなど、十分合理的な理由でもある。やはり、私学ゆえ（大学院学生も入れれば、今日機械系学科では教員一人当たり40人も（面倒を）見ている。国立は、精々20人である。これでは教員も研究どころではない）の悩みである。

座学科目・講義は一層問題を持っている。学部の科目で、時代の進展を感じさせる科目は、精々数値計算法／数値シミュレーション法くらいである。数学、物理学、力学や材料・材料力学、熱力学、流れ学（水力学とも称していた）、機械力学（振動工学）などは、40年前の教科書が使える。いや、実は使えないのである。自分達がかって習った内容すべて教えようとしても、多くの学生は十分修得できない。その結果、教える内容も少なくなり、繰り返し教えることが増す。しかし、社会が期待する能力は違うはずである（ただ、最近の企業も問題で、入社試験で学力確認試験はほとんど行わない）。我々は、どのような学生を世に送り出せばよいのか？ もし、その要求が高かったら？ それらを知らないまま、これくらいなら学生もわかるだろうと授業し、せめてこれくらいは分かってくれるだろうと“流されながら”教育をしているのが現状である。

ひとことエッセー

友人の先生に材料力学の履修状況が悪いことを嘆くように話した。「教え方が悪い」と一括された。採点時期になり、「どのように採点したらいいんだ。学生は全く分かっていない。このままで全員落ち！」と喚くと、「到達目標・獲得すべき（解答）能力がはっきりしていないから、学生は勉強の方法がわからないんだ」と教えられた。具体的な問題を示し、これがここまで解ければ60%理解している…とすればいいとのアドバイスをもらった。来年はぜひこれで行こう。それでも学生が応えられない場合は、「F」（不可）の評点もやむなし。全員落ちても止む無し。授業のレベルを上げないと、少しは混じっている優秀な学生をダメにする。なお、最初に書いたように、今日必修科目が減ったため、材料力学もI（2年の春学期）のみが必修である。そのため、少し複雑な不静定はりや組み合わせ荷重・応力、座屈といった項目を十分理解しないで卒業する学生がかなりいる。社会の目がもう少しシビアならと嘆くばかりではいけないが、つい愚痴は出る。

【大学院】

機械系学科では、一昨年は60%、昨年は66%、今年度は70%程度大学院に進学する（含む、他大学進学）。就職でも、博士前期課程修了者の方が優位である。学部での易化を受け、企業でも大学4年間ではなかなか使い物にならないと考えている節がある。また、企業内研修にも多くの時間、人員を割けなくなった事情もあり、大学院博士前期課程での修士論文研究を通して実践的な問題解決能力を取得した人材を欲していることからである。単位面からみれば、今の学部+博士前期課程での総単位数は40年前の学部時代と同じである。さすれば、学部+院2ヶ年=6ヶ年が今の機械系学生の就業年数かもしれない。確かに、本学機械系学科での修士論文研究指導は、教育面からみて他に誇れる点が少なくない。これにより、学生はある程度問題点を発見し、それを解決する能力の一端を身に着けることができる。その結果、企業からの評価も相対的に高い。しかし、進学率がこれほど増えてくると、博士前期課程に進学すべきでない学生も進学してくるようになる。卒業しても、下手をすれば、「過剰学歴」としてかえって仕事が見つからないことにもつながりかねない。大学院教育も曲がり角に来ていると著者は感じている。

【最後に】

大学は、暗に？①基幹・研究・重点大学：研究者養成大学、と②教育重点大学に分けられるという。本学は、②に属すると考えられる。新島譲も大学設立の旨意にそのように書き記している。一方、教員は教育に加え、一線の研究成果を求めて日々活動している。また、求められてもいる。幸い、毎年若干名の博士後期課程学生も卒業し、

ひとことエッセー

研究者の卵として世に送り出せているが、博士前期課程学生には、先端の研究実践を通しての社会に役立つ技術者としての問題解決能力の付与を目指している。機械系の研究テーマの多くは、学生との共同作業で達成される分野である。本学は、いわゆる研究センター大学ではないが、個々の教員がその研究を推し進めるためにも、世界に通じる研究を通して学生を教育するためにも、大学院に受け入れる学生の能力、資質には高いものが要求される。図 2 (c) の実態と併せて考えると、研究実施においても難しい時期に来ている。

止めることのできない社会的趨勢として、教育に絞れば大学院博士前期課程までの 6 か年は必須と言える。実務的な学生を育てるために、教育内容を見直す時期にも来ていると感じる。研究を通して大いに教育される人材もいれば、むしろ多くの実務経験（例えば、設計製作、幅広い実験の経験、インターンシップ）としっかりした基礎学力、実務学力（語学）を習得させて世に送り出した方が適切な人材もいる。大学院入学者を二つに分けるのも一案であろう。これは、一つ同志社大学機械系学科のみに限らないと思える。日本の高等教育界が抱える問題でもある。技術の空洞化が叫ばれ、多くの企業が海外移転を模索する中、不安は尽きない。しかし、教育を止めるわけにはいかない。日本人でも留学生でも構わない。よくできる学生はいい学生。しかし、できれば、日本のために日本に住む人を教育したい。

¹ 図では、人間を「大学で教育を受けるのに必要な資質」として、識別している。かつ、資質の程度については、集団でみれば概ね正規分布しているように仮定している。しかし、これは人の価値を表す物でない。誤解が無いように予め断っておく。

² 偏差値が意義深いかどうかの議論はさておき、とりあえず大学の難易度を表す指標ではある

(S45〈1970〉年機械工学科卒：機械システム工学科教授)

同窓会活動・リユニオン

2010年度 理工学部同窓会幹事会記録

- 2010年5月1日に第1回幹事会を開催し、昨年度の事業・会計報告と今年度の事業計画について審議を行った。
- 2010年8月22日に第2回幹事会を開催し、会長の方針に基づいた活動状況と今後のスケジュールについて審議を行った。
- 2010年11月7日の総会開催に先立ち、第3回幹事会を開催し、総会の議題について審議を行った。
- 2010年12月22日に第4回幹事会を開催し、経過報告及び今後のスケジュールについて審議を行った。幹事会終了後、懇親会にて親睦を深めた。

2010年度 理工学部同窓会総会の活動報告

2010年11月7日今出川至誠館22番教室にて開催され、上西 勝也同窓会会長及び辻 幹男理工学部・工学研究科長よりご挨拶をいただき、その後以下の議事を審議。

- (1) 2009年度事業報告、2009年度収支決算報告、2010年度事業計画、2010年度予算案を承認した。
- (2) 会則改正及び役員改選について、全員一致にて承認された
- (3) 上西 勝也同窓会会長退任挨拶、橋詰 源治同窓会新会長就任挨拶。

同志社大学理工学部同窓会会則改訂

第10条 役員に欠員を生じた場合は、その事務取扱者を幹事会で選任することができる。 追加

第15条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

追加

2010年11月7日改正

2011年度 理工学部同窓会総会・リユニオンのご案内

2011年11月6日(日)に京田辺キャンパスでの同志社京田辺祭2011(クローバー祭)にあわせ、総会とリユニオンの開催を予定しております。

日 時：2011年11月6日(日) 13:00～18:30

場 所：京田辺キャンパス

13:00～14:30 理工学部研究室公開(理工学部OB・OGのみ*)

※事前に事務局へご連絡ください。

14:30～15:00 総会 恵道館1階104教室

決議事項

1. 2010年度事業報告の件



同窓会活動・リユニオン

2. 2010年度会計報告承認及び監査報告の件
3. 2011年度事業計画及び予算承認の件
4. 次期役員選出
5. その他

15:15～16:45 「はやぶさ」講演会 恵道館1階104教室

講師 NEC航空宇宙システム シニアエキスパート

小笠原雅弘氏

『もう一度、エンジンに灯をともしよう～

「はやぶさ」が教えてくれたこと～』

<http://www.nec.co.jp/ad/hayabusa/>

17:00～18:30 理工学部同窓会リユニオン懇親会（紫苑館生協食堂）

「同志社大学ホームカミングデー 2011（2011年11月6日）」

卒業生が母校、同志社大学にお帰り頂く年1回の催し「ホームカミングデー」が11月6日に開催されます。詳細は同封のパンフレットおよび<http://doshisha-koyu.net/index.html>に掲載されていますので、ご参照の上、是非お越しください。

「同志社京田辺祭 2011（クローバー祭）（2011年11月5～6日）」

今年7回目を迎える京田辺祭（クローバー祭）は、学生・教職員・市民が一体となって共に楽しみ、ふれあい、交流する場を創出し、大学と地域が連携した新しいコミュニティの形成を目指して開催されます。詳細は、<http://doshishaclover.web.fc2.com/>まで。

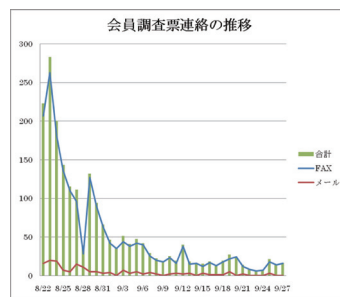
「国民文化祭・京都 2011」

日本最大の文化祭、国民文化祭・京都 2011 が、今年京都府で開催されています。
<http://www.pref.kyoto.jp/kokubunsai/>

2011年度名簿調査状況報告

8月下旬より卒業生の皆様に4年に一度の名簿調査を行い、9月27日までにFAXやメール等にて2,000人以上の方々よりご連絡いただきました。ご協力有難うございました。住所や連絡先、勤務先等が変更及びご逝去された場合は、速やかに事務局までご連絡いただけると幸いです。

尚、ご連絡済みで変更がされていない場合も事務局まで電話、FAX、Mailにて随時ご連絡いただけると幸いです。



名簿新システムについて

2007年度に発行された名簿CDは、2011年4月30日をもって閲覧できなくなっています。これに伴い、会員名簿の閲覧方法を検討の結果、事務局での閲覧方式に切り替えることになりました。そこで、その仕組みについて、ご説明させていただきます。

同窓会会員のご自宅住所、勤務先情報、卒年、所属ゼミなどの個人情報、ご登録いただいている情報を事務局で一括管理させていただいております。従来は、その閲覧は、名簿CDによる方法しかなく、発行後の住所変更などに対する対応ができませんでした。そこで、今回のシステム改定に伴い、会員からの訂正情報をリアルタイムに事務局で把握し、いつでも閲覧して頂けるように、事務局に閲覧用パソコンを設置します。同窓会会員の情報を閲覧されたい方は、事務局にお越し頂き、会員確認をさせて頂いた上で、ご自由に閲覧用パソコンにおいて、会員情報を閲覧して頂けます。但し、会員ご本人から公開拒否されている情報は閲覧できないようになっております。一方、直近の調査による紙台帳も事務局に常備していますので、閲覧が可能です。

また、直接事務局までお越しできない方のためには、お電話で事務局までご連絡頂ければ、必要な情報をご提供させていただきますので、お問い合わせください。同窓会開催などの折には、宛名シールなどの印刷にも対応させていただきますので、是非とも有効にお使い頂きますよう、ご案内申し上げます。

ホームページリニューアルについて

1. ゼミの今を発信

現在の理工学部内のゼミ研究室の様子を文章だけでなく、写真を交えた投稿やインタビュー形式でお知らせ致します。インタビュー内容は、その年の論文テーマを始め、学部生や院生の状況を交え、またゼミ内及び先輩との交流を可能にする掲示板としても機能しますので、よりLiveな研究室の様子をお伝えできます。

2. 同窓生OB・OG同士と母校との交流

ゼミ毎を始め、学科学年毎・就職先毎に細分化された掲示板をご用意。同窓生の交流のみならず、現役学生からの報告や就職に関する疑問・質問を投げたりできる交流



ゼミ情報・勤務先情報など、検索項目を入力して該当データを閲覧することも可能になりました。

同窓会活動・リユニオン

の場として活用できます。

3. 一部コンテンツ閲覧に登録制を設けます

ご利用される皆様の個人情報保護を考え、一部のコンテンツを同窓会会員の登録者しか閲覧できないように制限致しました。理工学部及び大学院生と同窓会会員であれば、どなたでも簡単に登録が可能です。

4. 事務局からのお知らせ

事務局からより多くの情報を発信し、見ていただく事ができるよう、お知らせをカテゴリ分け致し、過去のお知らせを分類して、閲覧しやすくなりました。

The screenshot shows the website interface for the alumni association. At the top, there is a header with the organization's name and navigation links. Below the header is a banner image with a quote. A main navigation bar contains links for Home, About Us, Research Information, Career Information, Alumni Information, Branch Information, DokoNet, Faculty of Engineering, and Alumni Association. The main content area is divided into two columns. The left column features a 'トピックス' (Topics) section with a list of news items, each with a date and a brief description. The right column has an '更新情報' (Update Information) section with a list of recent news items. At the bottom, there is a footer with contact information and a 'PLAY FOR JAPAN' logo.

同志社大学 理工学部同窓会
Alumni Association Doshisha University Faculty of Engineering

お問い合わせ | サイトマップ | フライヤー・ポスター
リンク

SEEK TROUGH YOUR VOCATION TO
SERVE GOD AND HUMANITY
天職による神と人への献身
J. N. HARRIS
→ 詳細はこちら

HOME | お知らせ | 研究室情報 | 就職先情報 | 同窓会情報 | 支部情報 | DokoNet | 理工学系案内 | 同窓会案内

トピックス

バックナンバー

- ▶ 同窓会案内 ゼミ同窓会委員懇談会 報告(2011-05-20)
- ▶ 同窓会案内 電気工学科 昭和39年卒業同窓会 報告(2011-05-06)
- ▶ 同窓会案内 薬師のハンカチのホ(2011-05-06)
- ▶ 同窓会案内 加藤・山崎記念基金 名筆文化博士号贈呈式及び特別講演会のご報告(2011-02-17)
- ▶ 同窓会案内 同志社理・学会講演会(2011-02-10)
- ▶ 同窓会案内 加藤・山崎記念基金 名筆文化博士号贈呈式及び特別講演会のお知らせ(2011-01-07)
- ▶ 同窓会案内 ヒマラヤ移の移転について(2010-12-22)
- ▶ 同窓会案内 2010年度クリスマス・イルミネーション点灯式(2010-12-02)
- ▶ 同窓会案内 同志社大学 キャンパス整備事業について(2010-12-02)
- ▶ 同窓会案内 第48回 同志社大学理・工学研究開発発表会 2010年度学内研究センター合同シンポジウムについて(2010-11-22)
- ▶ 同窓会案内 2010年度同志社大学理・工学同窓会総会報告(2010-11-22)
- ▶ 同窓会案内 工学部総会 50周年記念大会のお知らせ(2010-11-05)
- ▶ 同窓会案内 同志社創立135周年記念「歴史遺産」(2010-11-05)
- ▶ 同窓会案内 同志社友田功徳が歿された(2010-11-05)
- ▶ 同窓会案内 同志社大学「キャンパス再編計画について」(2010-11-05)
- ▶ 同窓会案内 2010年度同志社大学理・工学同窓会リユニオン懇話会のご案内(2010-11-05)
- ▶ 同窓会案内 2008年度同志社大学リユニオン懇話会の開催(2008.10.9更新)(2008-10-10)
- ▶ 同窓会案内 2008年度同志社大学理・工学同窓会新田会長のご挨拶(2008.7.24更新)(2008-07-24)
- ▶ 同窓会案内 2008年度同志社大学理・工学同窓会総会報告(2008.5.12更新)(2008-05-12)
- ▶ 同窓会案内 同志社大学理・工学同窓会 講演会のお知らせ(2008-04-17)

更新情報

- ▶ 2011-05-20ゼミ同窓会委員懇談会 報告をトピックスに追加しました。
- ▶ 2011-05-19トピックス「電気工学科 昭和39年卒業同窓会 報告」及び「薬師のハンカチのホ」に写真を追加しました。
- ▶ 2011-05-06薬師のハンカチのホをトピックスに追加しました。
- ▶ 2011-04-25電気工学科 昭和39年卒業同窓会 報告をトピックスに追加しました。
- ▶ 2011-02-17加藤・山崎記念基金 名筆文化博士号贈呈式及び特別講演会のご報告をトピックスに追加しました。
- ▶ 2011-01-07加藤・山崎記念基金 名筆文化博士号贈呈式及び特別講演会のお知らせをトピックスに追加しました。
- ▶ 2010-12-22ヒマラヤ移の移転についてをトピックスに追加しました。
- ▶ 2010-12-022010年度クリスマス・イルミネーション点灯式をトピックスに追加しました。
- ▶ 2010-12-02同志社大学 キャンパス整備事業についてをトピックスに追加しました。
- ▶ 2010-11-22DokoNet第13号が発行され、DokoNetのページに追加されました。

名簿作成のダイレクトメールにご注意!!

最近「同人革新雑誌」から同志社大学「学部卒業生」に対して、「同志社大学「工学部同窓会」作成のための案内（任侠はがき）」が送られてきております。

PLAY FOR JAPAN がんばれニッポン!

HOME | お知らせ | 研究室情報 | 就職先情報 | 同窓会情報 | 支部情報 | 理・工学系案内 | DokoNet | 同窓会案内

同志社大学 理・工学部同窓会
事務局 〒610-0321 友田町多々軒町1-3 同志社大学「学内」 ☎0774-65-6219 Fax0774-65-8850

同志社大学ホームページアドレス <http://www.doshisha.ac.jp/>
同志社大学 理工学会・理工学部同窓会ホームページアドレス <http://dokonet.doshisha.ac.jp/>

2011年度 同窓会会費納入のお願い

同窓会の運営は同窓会会費によっておこなっております。同窓生の方は、今年度会費 2,000 円を同封の用紙にて下記の郵便口座へお支払下さいますようお願い申し上げます。何卒宜しくご理解ご協力のほどをお願い申し上げます。(すでにお支払くださった方は本文は関係ありません。)

郵便振替口座 同志社大学理工学部同窓会 00990-0-151193

同志社大学 京田辺キャンパス

〒610-0321 京田辺市多々羅都谷 1-3

理工学部・理工学研究科事務室 Tel:0774-65-6200 Fax:0774-65-6800

理工学研究所事務室 Tel:0774-65-6220 Fax:0744-65-6804

同志社大学理工学部同窓会へのご質問、ご意見あるいは本冊子「DoKoネット」へのご投稿をお待ちしております。同窓会事務局あてご自由に連絡、投稿下さい。なお、Dokoネットの発送につきましては、大口発送元である株式会社エルネットを発送代行者として発送させていただきます。

2011年9月27日発行

同志社大学理工学部同窓会

発行者：橋詰 源治

〒610-0321 京田辺市多々羅都谷 1-3 同志社大学理工学部内
理工学部同窓会事務局 Tel:0774-65-6219 Fax:0774-65-6850
印刷：大枝印刷株式会社 Tel:06-6381-3395 Fax:06-6318-2000